国際協働プロジェクト(ISAP)
事業報告書
(第 6 回 2015 年度版)

日本国際学生協会

目次

第 1 章国際協働プロジェクト概要
1-1 実行委員長挨拶 P04
1-2 実行目的 P05

第 2 章第 6 回国際協働プロジェクト概要
2-1 第 6 回国際協働プロジェクト概要、協力団体 P07
2-2 年間スケジュール P08
2-3 第 6 回国際協働プロジェクト日程 P09
2-4 実行委員、スタッフ名簿 P11

第 3 章プロジェクト報告
3-1 国内活動概要 P13
3-1-1 事前勉強会 P13
3-1-2 交流会 P15
3-1-3 国外活動報告会 P16
3-1-4 国内活動総括 P17
3-1-5 国内活動写真 P18
3-2 国外活動概要 P20
3-2-1 フィールドワーク総括 P21
・dumpsite tour P22
・city tour P24
3-2-2 協働活動総括 P27
・nutrition lecture P28
・week end activity P31
・work 活動 P34
3-2-3 交流活動総括 P35
・school activity P36
・workshop P38
・friendship night P40
3-2-4 国外活動写真 P42

第 4 章参加者の感想
4-1 ホームステイ感想① P46
4-2 ホームステイ感想② P47
4-3 参加者感想① P49
4-4 参加者感想② P51

第 5 章実行委員総括 P55

第 6 章第 6 回国際協働プロジェクト予算書及び決算報告
6-1 第 6 回国際協働プロジェクト予算書 P57
6-2 第 6 回国際協働プロジェクト決算報告 P59

第１章
国際協働プロジェクト概要

実行委員長挨拶

実行目的

1-1

実行委員長挨拶

昨年の 12 月から約 1 年間。私達は、国際協働の難しさややりがいを身を持って体験してきました。そして、たくさんの方々との「協働」があったからこそ、多くの挑戦を行うことができ、困難を乗り越えることができました。第 6 回の活動を終えようとしている今、前回の活動の反省点や成果を活かし、多くの方々のご協力のもと、意義高い価値のある 1 年間を作ることができたと感じています。このプロジェクトに関わり、支えてくれた皆様に感謝の意を表します。

本年で 6 回目の開催となって本プログラムも、これまでの反省点を活かすことはもちろんのこと、常に新しいことに挑戦するという姿勢も大切にしてきました。母団体である ISA の全国代表者をはじめ、会員のみなさま、現地での活動を終始支え、共に働きかけてくれた LOOB スタッフ・キャンパーのみなさま。私達日本人を温かく家庭へ受け入れてくださったホームステイ先のナナイ(Host-mother)、タタイ(Host-father)。現地の子どもたちとの絵の交換を企画し、ご協力いただいた団欒長屋の渕上様、私達の活動を熱心に聞いていただいた共立国際交流奨学財団の石塚様、私達の活動相談にのっていただき、協賛していただいたみなさま。これまでの事を成せたのはこのプロジェクトに関心を持ち、支えてくださったみなさまのおかげです。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。この報告書を読んでいただき、今後とも国際協働プロジェクトにご関心を持っていただければ幸いです。

私達の活動は、社会や世界から見れば、ほんの小さな一歩に過ぎないかもしれません。国際協働を通し、現地の方々にきっかけを与え相互成長につなげる。思い描いているように事が運ばないこともあり、実際に行動することの難しさを痛感することが多かったように思います。しかし、日本とフィリピンでの活動によって、私達は貴重な仲間と経験を得ることができました。そして多くの方々の笑顔や感動の涙、感謝の言葉や叱咤激励は、私達に行動する意欲と新たな気づきや学びを与えてくれました。これらの人々との関わりは決して小さなものではなく、一つ一つの関わりがかけがえのない大切なものであると信じています。私達のこれらの経験をより多くの方々に伝え、社会へ還元できるようこれからも努めていきたいと考えています。

最後に、私と共に困難を乗り越え、活動を楽しみ支えてくれた頼もしい実行委員・スタッフのみんなに、心から感謝します。

2015 年 11 月　　第 6 回国際協働プロジェクト（ISAP06）実行委員長 橋本　望

1-2

実行目的

この国際協働プロジェクトは「世界平和達成への貢献」を理念に掲げ、その為に必要な活動を様々な御協力者と共に働きかけながら作り上げ、実行することを目的とした国際協力活動を行うものです。

国際学生協会（ISA）は 1934 年に発足した団体です。そして、第 2 次世界大戦という悲惨な体験によって、当協会は世界平和の重要性への認識を得ました。「世界平和達成への貢献」という理念に基づいて行われる私達の活動は、既に 81 年の時を経ています。その中での活動の一環として、私達は 61 回の国際学生会議を開催しています。この会議に参加した学生一人一人の心の中に「世界平和達成への貢献」という理念が確実に根付き、人類の相互理解への寄与は、大いに価値のあるものであると自負しています。しかしそれと同時に、私達は学生としての「行動」の重要性を痛感しています。61 回それぞれの会議の中で感じたことや考えたことを、行動により実社会に還元しなければならないのです。つまり、世界平和達成へのより大きな貢献の為には、議論の枠を越え、平和へ向けたより主体性を伴った行動が必要不可欠なのです。
今までに足りなかったこの「行動」を推進していく本プロジェクトにおいて、私達は次の実行目的を掲げることと致しました。

『自己の成長に伴う他者の成長への貢献』

「世界平和達成への貢献」という壮大な理念のもと、私達は全力で「学生に何ができるのか」という問いかけに立ち向かい、この問いかけに対して私達は成長を志向します。なぜなら、将来を担う私達学生が自らの手で課題を見つけ解決策を模索し実行に移していくことで得られる成長が、世界平和達成への大きな推進力になるということを ISA の長い歴史の中で実感してきたからです。本プロジェクトを実践していく中で、私達の活動に関わる全ての人が、私達の活動から何らかのきっかけを得てさらに成長し、彼らからもらう刺激を糧に私達もさらに成長する。そうして相互成長を促進し影響の輪を広げていくことによって、世界平和達成への基礎を築いていくのです。私達学生は今すぐ社会的に大きな影響を与えることはできませんが、10 年後 20 年後を見据えた時、私達の活動が着実に社会の大きな財産となっていると信じます。

私達個人の成長が ISAP という組織の成長に繋がり、それが他者への成長に繋がる。そうして学生一人一人の小さな力が世界平和達成への大きなうねりとなることを切に願います。そのための第一歩を、私達は踏み出したのです。

第２章

第６回国際協働プロジェクト概要

第６回国際協働プロジェクト概要、協力団体

年間スケジュール

第６回国際協働プロジェクト日程

実行委員スタッフ名簿

2-1

第 6 回国際協働プロジェクト概要、協力団体

構成　　国内活動：「事前勉強会」、「交流会」、「活動報告会」

　　国外活動：「フィールドワーク活動」、「協働活動」

実行日　　国内活動：2015 年 2 月～2015 年 12 月

　　国外活動：2015 年 9 月 6 日～9 月 17 日

場所　　国内活動：平生記念セミナーハウス、団欒長屋（学童）

　　国外活動：フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市

ねらい　　協働を通した実践により自他共に成長し、広い視野をもつこと

参加人数　13 人

協力団体　NGOLOOB、団欒長屋(学童)

2-2

年間スケジュール

1 月　引継ぎ会

2 月　第一回実行委員事前勉強会

3 月　第二回実行委員事前勉強会

4 月　実行委員合宿

5 月　第三回実行委員会議（スタッフ選考）

6 月　第一回実行委員、スタッフ合宿

7 月　第二回実行委員、スタッフ合宿

8 月　第三回実行委員、スタッフ合宿

9 月 6 日～17 日　国外活動

10 月　反省会

11 月　報告会

12 月　実行委員長決定

2-3

第 6 回国際協働プロジェクト日程

日付	活動内容	活動場所
9 月 6 日	日本出国	
	マニラ経由イロイロ着	
	LOOB share house 着	
9 月 7 日	オープニングセレモニー	LOOB share house
	ダンプサイトツアー	カラフナンダンプサイト
	ダンプサイト家庭訪問	
	Child minding	
9 月 8 日	ナバイス村散策	ナバイス村
	Nutrition lecture, School activity 準備	LOOB base
	ワークショップ	
	ホームステイ	
9 月 9 日	ワーク活動	LOOB base
	Nutrition lecture, School activity 準備	
	ホームステイ	
9 月 10 日	ワーク活動	デイケアセンター
	Nutrition lecture	ナバイス小学校
	School activity	ナバイス小学校
	反省会	LOOB base
	ホームステイ	
9 月 11 日	ワーク活動	デイケアセンター
	Nutrition lecture	ナバイス小学校
	School activity	ナバイス小学校
	反省会	LOOB base
	ホームステイ	

9 月 12 日	Weekend activity	ナバイス村
	ホームステイ	
9 月 13 日	Sunday home stay	
	フレンドシップナイト	LOOB base
	ホームステイ	
9 月 14 日	ワーク活動	デイケアセンター
	Nutrition lecture	TCT AR FI 小学校
	School activity	TCT AR FJ 小学校
	反省会	LOOB base
	ホームステイ	
9 月 15 日	クロージングセレモニー	LOOB base
	アメイジングツアー	イロイロ市
	LOOB share house 着	
9 月 16 日	ギマラス観光	ギマラス島
	ショッピング	SM モール
9 月 17 日	イロイロ発	
	マニラ経由日本帰国	

2-4

実行委員、スタッフ名簿

＜実行委員一覧＞

注 ISAP05：第五回国際協働プロジェクトの略称

役職	名前	大学・学年	備考
実行委員長	橋本望	岡山大学　3 年	ISAP05 実行委員
総務部長	枝松友紀	ノートルダム清心女子大学　3 年	
財務部長	石橋里沙	甲南大学　2 年	
広報部長	長谷川麟	岡山大学　2 年	
企画部長	坂本綾美	関西学院大学　3 年	

＜運営スタッフ一覧＞

名前	大学・名前
辟宇航	神戸大学　3 年
浦川恵理子	甲南大学　3 年
岡根千晴	ノートルダム清心女子大学　3 年
山地杏奈	ノートルダム清心女子大学　3 年
東果帆	関西学院大学　2 年
原田侑加里	ノートルダム清心女子大学　2 年
北野哲弥	学習院大学　2 年
穴井万里奈	北九州市立大学　2 年

第 3 章

プロジェクト報告

国内活動概要

事前勉強会
交流会
国外活動報告会
国内活動総括
国内活動写真

国外活動概要

フィールドワーク総括
Dumpsite tour, city tour
協働活動総括
Nutrition lecture, Week end activity, Work 活動
交流活動総括
school activity, workshop, friendship night,
国外活動写真

3-1

国内活動概要

期間：　2015 年 1 月　～　2015 年 12 月
活動内容：1. 事前勉強会
　　2. 交流会
　　3. 報告会

3-1-1

事前勉強会

文責：長谷川　麟

1. 活動の目標目的

国外活動前に、フィリピンや国際協働、国際協力、提携団体についての知識を身につけ、国際活動の準備を行うこと。またメンバー間の友好関係を築き、協働を通した実践により自他共に成長する。

2. 活動内容

日程：2015 年 1 月～2015 年 8 月　（月に一度開催）
活動場所：甲南大学平生記念セミナーハウス、延命寺、岡山市民会館
活動内容：それぞれのメンバーの間で、活動に対するとらえ方に違いがあると、活動をおこなっていく中で、方向性の違いが生じるため細かい活動に対しても目標や目的を定めていった。事前勉強会の主な活動は、アイスブレイク、英語企画、勉強会、国外活動の準備の 4 項目に分類することができる。

・アイスブレイク
異なる大学、異なる学年からメンバーを募集し活動を行うため、どうしても最初はメンバーとメンバーとの間に壁がありました。その壁を取り除き、より円滑な活動を行うために、毎回アイスブレイクの時間を設けました。

・英語企画

国外活動の拠点となるフィリピンでは、英語を使っての活動となるので国外活動に備えて、英語力を鍛える企画を行いました。English time と決められた時間には、英語のみで会話を行ったり、日本文化を英語で伝えるトレーニングを行ったりしました。この活動により、自分たちの現状の英語力を知り、勉強に対するモチベーションを維持することができました。

・勉強会
今回の参加者のうち、フィリピンへの渡航経験があるメンバーが少なかったこともあり、多くの時間を使い、フィリピンの文化や言語などについて勉強を行いました。現地のことを知ろうと努力を重ねていく中で、自分たちの活動が現実味を帯びていき、国外活動でも大きく意味を成した活動でした。

・国外活動の準備
国外活動において、私たちは 4 つ企画のグループを作り、それぞれのグループにおいて目標目的を定め、活動についての話し合い、活動の準備や練習をおこないました。現地の子供たちに対するレクチャーの練習や、現地で披露するダンスの練習、フィリピン人のメンバーと交換するプレゼントの作成などなど、活動は多岐にわたりました。

3. 反省点
活動の準備に関して、現地での詳しい情報がわからなかったため、広い範囲での準備や練習を必要としました。去年の参加者とも、もっと密にコンタクトを取り合い、現地のことを知ろうとするべきでした。実行委員とスタッフとの間で情報の伝達がうまく行われておらず、活動がスムーズにいかなかったことがあったので、もっとまめな連絡や相談を行える環境作りに努めるべきでした。

4. 感想
事前勉強会で回を増すごとに、自分たちがこの活動の当事者であり、自分たちで考え、自分たちが実践するのだという意識が高まっていきました。月に一度の事前勉強会の間にも、メンバー間で SKYPE を用いて、話し合いなどを行うことによってモチベーションも高くキープすることができたと思います。企画の準備や勉強会、英語企画のどれもが国外活動にてやっていて良かったと思うものばかりで、また国外活動で自信を失いそうになったときにも、あんなに準備や練習を行ったのだから、大丈夫だという支えになりました。本当に意味のある活動であったと思います。

3-1-2

交流会

1. 活動の目的目標

フィリピンの子供たちと日本の子供たちをつなげる。

2. 活動内容

日程：　8 月 8 日、10 月 30 日

活動場所：団欒長屋

協力団体：団欒長屋

活動内容：フィリピンと日本の子供をつなげるという目標を胸に、団欒長屋さんという学童さんの子供たち（小学生低学年 10 人ほど）と交流しました。国外活動前と国外活動後の 2 回行いました。子供たちと一緒にフィリピンのかき氷のようなおやつハロハロや、東南アジアの料理のガパオを一緒に作って食べたり、フィリピンについてのことや、ISAP の活動についてクイズのような形式で、子供たちにわかりやすく伝えたりしました。子供たちがフィリピンをはじめ、世界の国々に興味を持つ良いきっかけになったと思われます。また、子供たちの将来の夢の絵を描いてもらい、その絵を私たちがフィリピンに届け、フィリピンの子供たちにも、同様に夢の絵を描いてもらい交換するという企画を行いました。また 10 月の交流会ではハロウィンも行いました。

3. 総括

この学童企画は子供と接する機会の多い ISAP では欠かせない活動です。子供は興味の有無がはっきりと目に見て分かるので、どのようにやれば、子供の興味を引くことができるのか、回数を増すごとに分かっていき、改善し実行するといういいサイクルをまわすことができたと思います。毎年、恒例の将来の夢の絵を交換するという企画は今後も継続して続けていってほしいと思いました。それは、実際にフィリピンの子供たちの書いた絵をプレゼントするほうがフィリピンの子供たちとのつながりを実感しやすいからです。今回、学童の子供たちの口から、フィリピンに行きたいという言葉が出たので、私たちの想いが伝わったのだと感じました。子供たちの夢の幅、可能性が少しでも広がってくれれば本望です。

3-1-3

報告会

１．活動の目的目標

ISAP で学んだこと、得たもののより多くの人に還元し、自他共に成長する。

２．活動内容

日程：　11 月 1 日
場所：　甲南大学　平生記念セミナーハウス
活動内容：
今年の ISAP の活動概要についてや、協力団体について発表した後に、細かい活動について、メンバーで担当を決め発表を行いました。主に、パワーポイントとムービーを使って発表を行い、ISAP についての皆さんに知ってもらえるいい機会になったと思います。参加型の報告会になるように、クイズや質問の機会も多く設けたことによって、和やかな雰囲気の中、報告することができたと思います。

３．反省点

本来の目標の 25 人達するにことができず、22 人の参加であったことが少し悔やまれます。広報は SNS を使って、主に行っていったが中高生や社会人の方々に対する広報の工夫もするべきでした。報告会では主に、活動内容について報告を行いましたが、参加者からもっと個人の感想が聞きたかったという声が出ていたので、来年以降の報告会ではもう少しこういう場を増やしていこうと思います。

４．感想

ISAP での活動で得たものを、多くの人と共有することができて、本当に満足のいく活動になったと思います。ISAP の正規の活動としては、最後の活動となったのですが、メンバー全員で手を抜くことなく、全力で取り組むことができたと思います。報告会に参加してくれた方々にも各地で ISAP のことを共有してもらい ISAP の輪が広がって欲しいと思います。また、この報告会の参加者の中から、来年の ISAP に携わってくれる方が一人でも多く出て欲しいと心より願っています。

3-1-4

国内活動総括

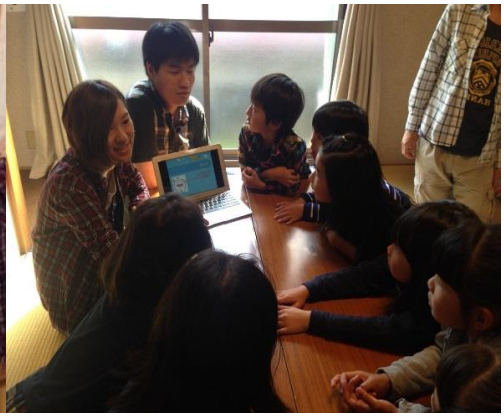
ISAP の理念である「協働を通した実践の中で自他共に成長する」における自他とは、自分とフィリピン人のみではなく、日本人のスタッフ、子供たち、自分たちの関わる全ての人たちにあてはまることだと思います。国内活動では、メンバーたちと自分の意見をぶつけ合い、そしてより良いものを考えていく、作り上げていく、そうした中で自他共に成長できたと実感しています。そして、国内における密の濃い打ち合わせを幾度と行い、メンバー間で方向性の確認や準備をきちんと行うことができていたからこその、国外活動も円滑に行うことができ、充実したものになったと思います。

3-1-5

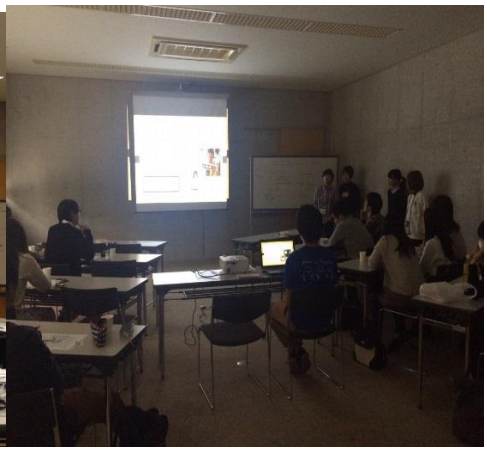
国内活動写真

・事前勉強会の様子

・交流会の様子



・国外活動報告会の様子



3-2

国外活動概要

期間：　　2014 年 9 月 6 日~17 日

場所：　　フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市

対象：　　ナバイスに住む人々

目的：　　協働を通した実践により自他共に成長し、 広い視野をもつこと

構成：　　「フィールドワーク活動」、「協働活動」

1.フィールドワーク活動

2.協働活動

協力団体：　NGO LOOB

3-2-1

フィールドワーク総括

文責：坂本　綾美

1. 活動内容

・ Dumpsite　Tour

初めに LOOB スタッフの方からカラフナンのゴミ山の歴史、イロイロ市のゴミの排出量、またリサイクルのシステムについて教えていただき、その後実際にスモーキーマウンテンを訪れました。ゴミを拾うことで生計を立てているウエストピッカーの方の家にも訪問し、質問をさせていただきました。

・ City Tour

LOOB スタッフの方のツアーの元でイロイロ市を観光しました。フィリピンが戦争で負った傷や、大学や市場の様子を細かく教えてくださいました。

2. 個人感想

ISAP の主活動はレクチャーやワーク活動ですが、フィールドワークも私たちにとってとても印象的なものとなりました。まずスモーキーマウンテンへの訪問ですが、これは容易に想像を超えるものとなりました。大きさや臭い、ウエストピッカーの方々の雰囲気。衝撃を受けることも多々ありましたが、感銘を受けることもたくさんありました。特に彼らの笑顔には私たちが抱いていた暗いイメージが吹き飛ぶ程の生命力の強さを感じました。私たちが現在日本で過ごしている日常は非常に便利なものであふれており、彼らの日常が不便であるように思われます。しかし彼らの生活は幸せであふれている気がしました。私たちは彼らの生活している姿を見て本当の「生き方」を肌で感じとることができました。

次にシティツアーですが、こちらも私たちにとって忘れることのない経験となりました。大学の様子は、日本の大学よりも神聖な雰囲気をまとっており勉学をしにくる場所であると、本来の大学の姿を感じました。市場は様々な果物や新鮮な魚を売っている姿を目にし、生き生きとした感じがしました。そして最後に歴史ですが、私たちは日本人がフィリピン人にした戦争の傷跡を目の当たりにしました。日本にいる間、私たちはそのような事実を知る機会があったでしょうか。私は母国の歴史を彼らに教わったこと、何も知らされていない日本人がいる事実をそこで実感しました。

私たちは本当に貴重な経験を ISAP でできたと思います。これらのことを踏まえ、私たちは次期 ISAP にこのような事実を伝えていくと同時に個人でもできることを見つけ協働という形で起こしていきたいと思います。

Dumpsite Tour

文責：坂本　綾美

1. 活動目標

実際にスモーキーマウンテンに足を踏み入れ、更にそこで生計を立て生活するウエストピッカーの家庭を訪れることでフィリピンが抱える社会問題の実態を肌で感じること、またその現状を知ることで私たち自身の知識を深めることを目標としました。

2. 活動目的

スモーキーマウンテンの実態を知ることによって彼らの価値観を理解すること、私たちがその現状に直面することで普段の生活との違いを学ぶことを目的としました。

3. 活動内容詳細

日程 2015 年 9 月 7 日(月)

活動場所　イロイロ市カラフナンにあるスモーキーマウンテン

国内活動では勉強会を通してスモーキーマウンテンについて調査をし、知識を身に付けました。またその知識からウエストピッカーに対してどのような質問を投げかけ彼らの生活をどう聞きだせるかについて話し合いました。国外活動ではスモーキーマウンテンを訪れ、私たちが想像していた現状と実際の現状の差異を実感しました。またウエストピッカーの方の家庭を訪れて、国内で準備していた質問を中心に彼らにスモーキーマウンテンでの生活にまつわる話を聞かせていただきました。

4. 企画の反省・改善点

反省点としましては、私たちはその現状に圧倒され受け入れるばかりで私たちからは何かを提供できる機会が少なかったという点です。スモーキーマウンテンの観光、ウエストピッカーの方々への訪問などフィリピンの方々の協力があったからこそ私たちは色とりどりの感情が抱け、国内では知ることができなかったであろう知識が得られました。Child minding というカラフナンの子供たちと一緒に遊ぶ企画があったのでそこで日本語を教えたりすることはできましたが、スモーキーマウンテンと直接関係のあることを私たちが何かしてあげれたか、と言われますと言葉に詰まります。だからといって私たちは目的に逸れていたわけではなく目的にそういった内容を入れていなかったことが問題だったと思われます。そこで次年度からの改善点としましては、目的目標に現地で知識を得ると共にそこで得た知識を基に action するという内容を入れるべきであ

ると考えます。今までのスモーキーマウンテンでの action は観光や訪問で留まっていましたが、次年度から action の概念を増やし私たち日本人にしか出来ない企画を現地でする、それこそが今後の ISAP の在るべき姿だと考えます。

5. 感想

国内でスモーキーマウンテンのイメージや知識を本やインターネットを使うことでいくら情報を得たとしても現地を実際訪れるとこんなにもイメージに差があるのかと驚きを隠せませんでした。悪臭だと知っていても、想像することは出来ますが実感することは出来ません。量に関しても想像したところで何が出来るでしょう。私は現地に赴くことで、知識を得て想像するだけで終わってしまうことの勿体無さを痛感しました。想像して悲観するくらいならば、赴いて実感し行動を起こすべきだと思います。ことはそんな感情論で済むものではありません。いくら国内でスモーキーマウンテンに関しての議論をしたとしてもそれに関することを国外で実践するだけの能力がないのであれば時間の無駄にすぎません。

私たちは今後、このような事実を知った以上そのことに目を背けることなく、積極的に対処し彼らにとってどうすることが本当の best なのか考えていくべきだと思います。

しかし私たちはそこで悲観しただけではありません。むしろ悲観よりも楽観的な気分になることの方が多かったように感じます。それはきっと彼らの笑顔のおかげです。たとえ私たちが理想としている環境で住んでいないとしても彼らにとっては日常であり幸せだとわかりました。

このように私たちは失望以上の感銘を彼らに受けました。私たちは今までとは違った視点でその問題に関与して行くチャンスがあります。これからもこのときに得た感情を忘れずに彼らと協働していきたいと思います。

City Tour

文責：坂本　綾美

1.活動目標

フィリピンの歴史を知り、日本との関係性を見つめ直すことを目標としました。

2.活動目的

イロイロ市の子供たちにレクチャーをするだけでなく、フィリピンがどういう歴史を抱えているのか、やイロイロ市はどういった都市なのか認識するためことを目的としました。

3.活動内容

活動概要

活動行程：　9 月 15 日(火)

活動場所：イロイロ市

内容要約:イロイロ市をフィリピン人スタッフにシティツアーという形で案内してもらいました。主にフィリピンが戦争で受けた被害の傷跡や大学見学をしました。

4.企画の反省・改善点

このシティツアーに関しましては現地に訪れた際、LOOB スタッフとの話し合いの結果「イロイロ市についてもっと知ってもらいたい」また私たち自身が「もっと知りたい」というお互いの要望の元、歴史的建造物の拝見をするなどといった項目を決定しました。またこの項目を決定するには国外で生活した上で決定する必要があると私たちは考えていました。

反省点としましては、私たちの「歴史」についての知識不足が主に挙げられます。国外で決定し得るものだったため何についての知識を深めておくべきかはあまり検討できず、知識不十分でシティツアーを行った部分がありました。そこでその改善点として、今後は国内でも検討する時間を設けワークショップのようにある程度の知識を背負った上で行うべきだと思われます。

5. 感想

私はフィリピンに関して私たちのような日本人を招き入れてくれたりと親日であるという明るいイメージを抱いていました。しかしこのシティツアーを通して、私が抱いていたイメージは一瞬にして暗いイメージに変わりました。というのも、日本はフィリピンを 1 度支配した国だと言うことです。私はその事実を知ってはいましたが、具体的に何を彼らにしたのかということは理解していませんでした。彼らはこう言ったのです。「日本人は憎しみを残した」のだと。私はそれを聞いたときショックで彼らの顔を今はどう思っているのか不思議でしばらく見つめてしまいました。彼らにとって今の日本については時代が変

わったからそのようなことは一切思ってはいないと言っていましたが私はそれでも申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。それと同時に日本ではそのような事実を教えてもらったことはないということに気づかされました。やはり支配した側は痛みを忘れてしまうのでしょうか。それとも帳消ししてしまいたいのでしょうか。私はその両方、あるいは他の理由もあるのだろうと思います。しかし知った以上、私たちはこのことを伝えていかなければならないと思います。このような事実を知る機会があって私はシティツアーを実行して本当によかったと思います。歴史を知るということは今を知ることであり、未来につながる重要な事実です。これから私たち日本人は何も知らずにその土地に足を踏み入れずに、知った上で少しでも彼らと同じ状況で協働したいと心から思います。

3-2-3

協働活動総括

文責：枝松　友紀

1. 活動内容

・小学校訪問（nutrition lecture）

栄養失調の子供たちを集めたクラスで、私たちは、好き嫌いをしないこと、良く噛むことの大切さ、運動の大切さ、手洗いと歯磨きのやり方について教えました。年齢、学年がバラバラなので、内容が、低学年には伝わるように、高学年には飽きさせないように伝える方法をフィリピン人スタッフと一緒に考えました。また、一日目と二日目は同じ子供たちに教えたので、同じことの繰り返しにならないように、クイズをいれたり、一日目の復習をしたりして飽きさせないように努めました。

・Week end activity

この日は土曜日だったので、学校ではなく、私たちがホームステイをさせて頂いている村で青空教室をしました。小学校訪問の時と同じ、栄養素、良く噛むことの大切さ、手洗いと歯磨きのやり方に加え、日本とフィリピンの食の環境の違いについて教えました。日本の食環境の特徴で、孤食を取り上げました。小さい子供たちにはわかりにくかった様子でしたが、何回も繰り返して言うことで理解してもらえたと思います。

・Work 活動

Work 活動では、小学校の近くにあるデイケアセンターに、トイレとキッチンを作りました。何もないでこぼこした場所に土を運ぶことから始め、セメントも自分たちでスコップを使って作りました。蒸し暑い中、フィリピン人と日本人がともに一つのものを作ることは、まさに協働だなと感じました。私たちの力だけでは、約 10 日間という短い期間では完成は難しかったので、現地の方々も一緒に手伝って下さいました。

2. 個人感想

私は小学校訪問での nutrition lecture では、歯磨きを担当しました。歯磨きをどうしたら楽しくすることができるかに重きを置いて、ペアのフィリピン人キャンパーと考えました。最初は、ただ説明するだけにしようと考えていたのですが、ペアの子が、ただ説明するだけでは飽きるから、クイズにしたほうがいいとアドバイスをくれました。二人でクイズを考えているときが、一番協働を感じられて、私の心に残っています。実際にレクチャーが始まり、子供たちの歯を見てみると虫歯で真っ黒になっている子もいました。私たちがした活動で虫歯が治るわけではありませんが、少しでも歯を磨く習慣がついてくれること願っています。Week end activity では外での活動でしたので、子供たちの注意を引くの

に苦労しました。しかし、私たちがきちんと声かけをすると、真剣に聞いてくれる子供たちの素直さにとても心打たれました。孤食というテーマは子供にはわかりにくかったかもしれませんが、フィリピンに行って一番心惹かれた所が、家族とのつながりの深さだったので、そのフィリピンのよさを、子供たちはもちろんのこと一緒に活動をした、フィリピン人キャンパーにも伝えられてよかったです。Work 活動では、現地の方たちの生きる力を感じました。私たちと同い年なのに、フィリピン人キャンパーはセメントの作り方から、ブロックの積み方まで何でも知っていました。そして、なによりみんなで一つのものを作るという過程がとても協働を感じることができました。Work 活動で作ったトイレとキッチンには、私たち全員の名前も彫ったのでこの名前をみて、私たちのことを思い出してくれるとうれしく思います。

Nutrition Lecture

文責：岡根　千晴

１．目的

体の健康に加えて、心の健康についても知ってもらうことです。また、レクチャーをすることで、自分たちの食生活を見直すことも目的です。

１．目標

食べることの楽しさ、食生活の大切さ、誰かと一緒に食べることの温かさを伝えることです。

２．活動内容詳細

・活動日程　9 月 10 日
　　9 月 11 日
　　9 月 14 日

・活動場所　Navais ES（１、２回目）、TCT AR FIS（３回目）

・活動内容

私たちがレクチャーした内容は、主に５つの項目に分けられます。私たちが国内で考えてきた、よく噛むこと・好き嫌い・運動についての３つと、国外で新たに付け加えた、手洗い・歯磨きについての２つです。

まず、Navais で行ったレクチャーについて記述します。

レクチャーは２つのグループに分かれて行いました。１つのグループが１日目のレクチャーを、もう１つのグループが２日目のレクチャーをしました。そのグループの中でさらに、MC、アイスブレイク、噛むこと、好き嫌いなど、それぞれの担当に分かれました。項目ごとに日本人キャンパー１人とフィリピン人キャンパー１人が就き、日本人が英語でレクチャーをし、フィリピン人がヒリガイノン語で説明するようにしました。クラスは、低学年から高学年の生徒まで、様々な年齢の子どもたちで編成されていました。

まず好き嫌いに関しては、食べ物の基本の３つのグループである“go” “grow” “glow”について、イラストやクイズを用いながらレクチャーをしました。例えば、「“go”の食べ物には何の栄養が含まれますか？」というような質問を投げかけ、子どもたちに答えてもらいます。これを、“grow”と“glow”でも同じように繰り返します。そして、最後に復習として、食べ物のイラストを見せ、３つの内どのグループに入るかを答えてもらうクイズをしました。子どもたちは栄養に関する知識をすでに持っていたので、問いかけには大声で答えてくれました。

噛むことでは、まず導入として、「食事のとき何回噛まなければいけないでしょうか？」という問いかけをしました。そのあと、よく噛むことで体の中で栄養が吸収されやすくな

ることや、脳の活性化に繋がること、虫歯も防ぐことができることを、イラストを用いて説明したり、体を使ってわかりやすく表現したりしました。栄養の吸収に関しては、LOOB さんの持っていた資料がわかりやすかったのでそれを使わせてもらいました。また、脳の活性化や虫歯に関しては、新しい資料が必要だと感じたので、現地で新たに作って補いました。昼食を教室で一緒に食べたので、その時に「ちゃんと噛んでる？」と声をかけ、実践するように促しました。

運動に関しては、運動することで得られる効果を簡単に説明した後、実践に移しました。外にある運動場のようなところに出て、全員で「アルゴリズム体操」をしました。英語版の音源と歌詞を書いた模造紙を日本から持ってきていたので、それを使用しました。もちろん子どもたちは全員この体操を知らなかったので、数名が前で手本を見せ、その他のキャンパーが散らばり、子どもたちに付いて教えました。

手洗いと歯磨きは、LOOB さんが毎回のレクチャーで必ず教えているということだったので、国外で急遽取り入れることになりました。どちらも同じような流れで進めました。まず、資料を示しながら手洗い、歯磨きをするタイミングや時間について説明し、それを子どもたちに復唱してもらいました。次に具体的な洗い方、磨き方を、手を使用したり、大きな歯と歯ブラシの絵を使ったりして説明しました。そのあと、この説明を集約した歌詞の歌を全員で歌い、楽しく理解させました。そして、食前食後に実践を行いました。

次に、TCT AR FIS で行ったレクチャーについて記述します。本来は、FJK ES で行う予定でしたが、スケジュールの関係で変更となりました。それに伴って、１、２回目と全体的に内容を変更、改善して行いました。人数の編成も変え、各項目に日本人２、３人とフィリピン人１人が就くようにしました。

好き嫌いで変えた点は、Navais で行った“go” “grow” “glow”に加えて、バランスのとれた食事についても教えたことです。米、肉、野菜、運動の４つを円グラフの中に書き、バランスの良い例のグラフと悪い例のグラフを挙げて、説明しました。グラフを簡潔なものにし、絵を入れ込むなどして、子どもにもわかりやすく提示しました。

運動では、時間の関係で実践ができなかったため、説明をより詳しいものにして理解させました。

他の項目でも、大きな変更はなかったものの、Navais での反省を活かし、より改善したものとなりました。

３．反省・改善点

①子どもの年齢が幅広かったため、高学年の子は理解できていたが、低学年の子は理解できていないように感じました。よりわかりやすい資料、言葉を使用する、キャンパーがそばについて理解を促すなどの取り組みに気を配る必要があったと思います。

②目的・目標や体操のやり方など、フィリピン人キャンパーと共有できてない部分があったので、初日に共有する時間を設けられれば良かったです。

③歯磨きの際に、早く終わってしまう子が何人かいました。子どもたち全員に気を配り、そばで指導するべきだったと思います。
④日本人だけの話し合いの場を何回か設けるべきだったと思います。私たちは、１、２回目の段階では、まだ状況が掴めず、レクチャーに慣れている LOOB さんのやり方に妥協してしまっていったので、一度日本人だけの話し合いをすることになりました。そこで全員の思いを聞くことができ、３回目では、自分たちがやりたいことはきちんと伝えるようにし、改善することができました。この話し合いをもう少し早い段階でできていればさらに良くなっていたのではないかと思います。

４．感想

目標に掲げていた食生活の大切さは、伝えることができたと思います。また、食べることの楽しさ、周りの人の温かさに関しては、昼食時に子どもたちとコミュニケーションをとりながら食事をしたので、教えるという形ではなく、一緒に体感するという形で達成できたと思います。しかし、十分に伝えきれなかった部分もあり、反省点はたくさんあります。

レクチャーをして一番に感じたことは、とにかく子どもたちが可愛いということです。真剣なまなざしで聞いてくれたり、こちらの問いかけに大声で答えてくれたり、非常に純粋な子どもたちばかりで素直に嬉しかったです。しかし、その反面、子どもたちを上手くまとめるのが難しいとも感じました。教えることに必死だったため、少し余裕を持つことができれば、もっと子どもたちと深く関われたのではないかなと思います。

ISAP のメンバーでは、子どもに教える経験がない人がほとんどで、また自分自身も初めてだったので、非常に苦労しました。しかし、このような経験は他ではなかなかできないものであり、一人一人にとっての貴重な体験となりました。

Weekend Activity

文責：東　果帆

1. 目標　目的
   - 英語力の向上
   - リーダーシップをつける
   - 説明力を上げる
   - 文化を共有する
   - 子供の成長　視野を広げる（知識、英語）
   - 楽しむ!!　ベストを尽くす!!

2. 活動内容詳細
   - 日程　　Day7　9 月 12 日（土）
   - 活動場所　Sitio Buri　私たちがホームステイをさせていただいた村の広場
   - 活動内容

     村の子どもたちにレクチャーをする

     - ISAP、日本の紹介
     - 自己紹介
     - アイスブレイク　♪Head, shoulder, need, and toe
     - Main topic　　食文化の比較

       Workshop でまとめたことを生かし、絵や復唱によって、日本の食文化を話し、フィリピンとの差を知ってもらう
     - ゲーム　　・台風

       ・ジェスチャー
     - Nutrition lecture　　・かむことの大切さを伝える

       ・後に食べるお粥の材料を知り、栄養で分類する

       ・３つの栄養のバランスの大切さを伝える
     - 手洗い　　・手洗いの歌を歌う

       ・教えながら手洗いをする
     - Feeding　Arrozcald（お粥のようなもの）をみんなで食べる

3. 企画の反省　改善点

   幅広い年齢の子どもたちに教えることが、とても難しかったです。

   Main topic は、子どもたちには身近ではない日本の話が多くを占めていたため、難し

い、面白くないと感じる子もいたと思われます。図を活用し、食習慣を子どもたちにリピートさせるなど、話を聞いてもらう工夫ができていましたが、幼い子どももいることを考慮し、より簡潔にまとめる必要がありました。また、日本の子どもたちの食事している写真を用意できれば、身近に感じられ、興味を持って聞いてもらうことができたと思います。

ゲームの時間では、とても面白いゲームでありましたが、広さや年齢に最適ではなかったです。いろんな子どもたちに楽しんでもらう難しさを知りました。

Nutrition lecture では、年齢が低い子どもがいることを考え、基礎的なことを復唱や挙手で参加してもらいながら教えました。しかし、LOOB が継続して栄養について教えている地域の子どもたちのため、すでに多くの子どもたちが知っている内容でした。もっと詳細な、初めて知るような内容を提供できればよかったです。

4. 感想

いろんな歳の子がいることで、いろんな反応が見られました。年長の子が下を向いている子に声をかけて、前のマテリアルを指さしたり、食事の時、私が話しかけて答えられなかった子に、横に座っていた子が通訳をしてくれたりと協力してくれました。子どもたちが仲良く、あたたかい青空教室でした。また、ステイ先の子が来て聞いてくれたことが嬉しく、大きな励みになりました。

work 活動

文責：石橋理沙

1. 目標・目的

LOOB スタッフ、フィリピン人キャンパー、ISAP メンバーで協力してワーク活動を行うことでお互いに絆を深めることを目的としています。

2. 活動内容詳細

・活動日程　9 月 9 日～11 日　午前中
　　9 月 14 日　午前中
・活動場所　デイケアセンター
・活動内容　LOOB スタッフ、フィリピン人キャンパー、ISAP メンバーでデイケアセンターにトイレとキッチンを作りました。

①混ぜるグループ
水とセメントを混ぜてブロックを重ねるためのセメントを作ります。
②運ぶグループ
トイレとキッチンを作る場所に土台の高さを均等にするために土を運びます。
③作るグループ
セメントを使って、ブロックを重ねていき、塀を作ります。

以上三つのグループに分かれて作業を行いました。

3. 反省、改善点

暑い中での作業でしたが、みんな集中して作業をしていました。しかし、ワークを後にすぐにレクチャーだったので、体力的にもレクチャーの準備をするのが大変でした。なので、来年からは、こまめに休憩の時間を入れるか、ワークの後に少し余裕をもったタイムスケジュールにする方が良いと思います。また、初めてする経験ですので、慣れないところもあり、現地の方々に手伝ってもらう場面が多かったのですが、もっと積極的に行動すればよかったと思います。ですが、全員よく動いていたと思います。最終的には無事に完成して良かったです。

4. 感想

今年のワークの内容は、デイケアセンターに隣接したトイレとキッチンの建設でした。フィリピンでは近年法律でトイレを二つ以上設置することを義務付けられ、その場所にはすでに一つはあったのですが、不足分の一つを補うため私たちが建設を手がけました。

また、キッチンは今まで先生が自宅で給食を調理し、それを学校まで運ぶという方法をとっており非効率的なものであったために建設しました。このキッチンが完成したことにより、配膳しやすくなることでしょう。これらの建設は、すべて手作業で、砂を運んでセメント作りをするところからの一からの作業でした。もちろんこれらの作業はたやすいものではなく、テクニカルスタッフさんに手伝ってもらいながら完成させました。フィリピンは雨期であったため、作業を中断させなければならないこともあり大変でしたが、数日にわたって作業を行いました。砂を運んだりセメントを混ぜたりする作業は、私たち日本人にとっては不慣れな作業で、フィリピン人とのコミュニケーションが必須であり、この活動を通じてより仲が深まったように感じました。慣れない肉体労働で大変でしたが、完成した時の達成感は忘れられないものであり、ISAP の理念でもある協働について一番触れることのできた活動でした。これまでの ISAP の活動では、水道や食堂等の建設に携わっており、これらを現在でも子供たちが利用してくれている姿を見ることができたので、来年以降も自分たちが建設したものが意味あるものになることを願います。

3-2-4

交流活動総括

文責：長谷川麟

1. 活動内容

・スクールアクティビティ

子供たちに日本の文化についてレクチャーを行いました。

・フレンドシップナイト

ホームステイ先の方々に感謝の意を伝えるための会で、日本料理などを振る舞ったり、ダンスを披露したりしました。

・ワークショップ

フィリピン人のキャンパーのみなさんと共に、日本とフィリピンの文化の違いなどについて話し合いました。

2. 個人感想

ホームステイや、friendship night、workshop、school activity などのフィリピン人との交流活動を通して、学んだことは何よりフィリピン人の人間性、フィリピンの文化です。そして、自分たちからもフィリピン人の方々に日本の素晴らしさ、日本の文化、そして日本人の人間性について伝えることができたと思います。フィリピン人のキャンパーさんや、スタッフの方々をはじめ、小学校の子供たち、ステイ先の家族のみなさんと、いろいろな話をしたり、共に体を動かしたりして、楽しい時間を共に過ごす中で、自分たちと彼らとの間に共通項が出来ていったと感じています。この共通項は ISAP の世界平和達成への貢献を実践によって実現するという理念に即していると考えます。この経験が将来、どう役立っていくのか、現地のフィリピン人の方々の中でどういう変化が起きたのか、またどういう変化が起こっていくのかは分かりません。しかし、彼らと自分たちとの間に共通項があることは確かです。この繋がりを忘れることなく、これからの人生に活かしてほしと願います。

School activity

文責：山地　杏奈

1．活動の目標目的

フィリピン人に日本を少しでも身近に感じてもらうことを目標に、日本の食と文化を知り、体験し、楽しんでもらうことを目的とした。

2．活動内容

日程：9 月 10 日(木)、11 日(金)、14 日(月)

活動場所：Navais Elementary School、

Tiu Cho Teg-ANA Ros foundation integrated School

活動内容：日本の四季や行事についての説明

国内活動では、日本の何の行事を説明するか、四季ごとに分けて話し合った。話し合った結果、春は端午の節句とひな祭り、夏は七夕、秋は月見、冬はお正月について説明することに決定した。

春の行事を端午の節句とひな祭りにしたのは、子供を対象にした行事であり、小学生たちに身近に感じながら聞いてもらえると考えたからである。また、フィリピン人は家族をとても大切にするという特徴があるので、子供の成長を祝うことを目的とした行事を紹介することで、日本にも家族を大切にするという共通点を伝えることができると考えたからである。これらの行事では、こいのぼりやひな人形を飾ることを紹介することに加え、端午の節句ではかぶと、雛祭りではひな人形を折り紙で一緒に作ることで、小学生たちの記憶により残るかつ交流できると考え、国内活動では人に教えられるように練習した。

夏の行事を七夕にしたのは、日本とフィリピンのつながりを作る有効な手段になると考えたからである。具体的に言うと、日本とフィリピンの子供の願い事を書いた短冊を１本の木にかけるといったものである。実際は、七夕の時期も過ぎていたので実現しなかった。その代り、学童企画で交流した日本の子供たちとフィリピンのホームステイ先の子供たちに将来の夢を絵に描いてもらい、交換することで日本とフィリピンの子供たちをつなげた。国内活動では、事前に七夕の物語の紙芝居を作成し、本番でも活用した。

秋の行事は月見について紹介すると決定したが、他の行事の説明に比べて説明することが少ないので、簡潔に紹介することにした。フィリピンは季節が乾季と雨季の２つの季節しかないので、日本の季節を知らない人もいると考えた。日本の四季についても知ってもらいたいと考えたので、秋の行事の説明は外さないことにした。

冬の行事を節分とお正月についての紹介を当初は行う予定だったが、国外活動の時間の都合でお正月だけ紹介した。お正月は元旦に神社にお参りに行くこと、伝統料理のお節を食べることについて紹介した。特にお節料理の一つ一つの食べ物にはそれぞれ意味が込められているので、日本の食について知ってもらうという目的のもと、絵を用いながら紹介した。紹介した食べ物は「まめ」に働くという意味が込められている黒豆、腰が曲がっていることから老人を連想させることで「長寿」を意味する海老、１年の「繁盛」や「繁栄」を願うものとして食べられる栗金団の３つである。

3. 反省、改善点

七夕の紙芝居は国内活動中に準備し、各自手分けして持って行ったのだが、クレヨン色を塗った絵は現地で使うときは汚れていた。使うペンに気を遣う必要があった。また、紙芝居は紙をめくるのに時間がかかるので、本番ではすべての紙を黒板に貼って説明した。また、説明がどうしても長くなるので子供たちが飽きないように工夫を考えるべきであった。改善点として、来年も紙芝居をするならば人形劇を挙げる。人形劇の方が分かりやく、持ち運びやすく、説明中に動きもつけられるからである。

また、準備段階で共に活動するフィリピン人スタッフにお節やこいのぼりの説明をして、理解してもらうことが難しかったので、まずは一緒に活動するフィリピン人スタッフに理解してもらえるような準備をしておく必要があった。今回は電子辞書の写真を見せたりしながらなんとか理解してもらえたが、紹介するものが決まっている時点で写真を拡大コピーしたものを用意して持っていくべきだった。

4. 感想

反省点も多く出たが、日本の食と文化を知り、体験し、楽しんでもらうという目的に沿うことができたと思います。高学年の小学生たちの中ですでに日本の四季を知っている子や、折り紙でかぶとを折れる子がいたのは予想していなかったので驚きました。折り紙を一緒に折ったり、紙芝居を聞いてもらったり、視覚的にも実践的にも楽しんでもらえる時間を提供できたように思います。３回目に行った小学校ではノートにメモしてくれている子もいてうれしかったです。子供たちが一人でも多く、私たちが紹介した日本の文化について覚えていてくれれば幸いです。

Workshop

文責：東　果帆

1. 目標　目的

目的　食について共に考えることで、お互いに新しい知識を得る

目標　今のフィリピンと日本の食を互いに知る

2. 活動内容詳細

・日程　　Day3　9 月 8 日（火）

・活動場所　LOOB Navais base

・活動内容

・日本の食問題について調べる（さまざまな“こしょく”、食品ロス）＠日本

・LOOB スタッフへ発表する

・グループに分かれ、食に関して最も大切にしていることについて話し合い、LOOB キャンパーと ISAP メンバーで比較する

・グループごとに考えをまとめて発表する

私が入ったグループでは、①食べ物の値段、②味、③栄養、④どこでつくられたか、⑤食べる時間、⑥環境、⑦一緒に食べる人、という 7 つの項目を設定した。そして、各々が優先するポイントを 3 番目まで選んで共有した。Filipino と Japanese の食に関する価値観の共通点と相違点を知った。

①②味は Filipino、Japanese にとって最も重要な点の一つであるが、
Japanese は値段より重要視し、少し高くてもおいしいものを選ぶ傾向がある。

③　栄養は Filipino がより重視しており、将来の健康を気にする Japanese は少ない。

④　Japanese は国産を好むが、Filipino はむしろアメリカ産などを選ぶ。

⑤　時間については、Japanese が重視するが、Filipino は重視しない。

⑥　環境は、双方ともあまり重視しない。Filipino は、そこまできれいではない、
バイキングのような屋台にときどき行くとのことだった。

⑦　Filipino は、家族や友達と一緒に食事をするが、
Japanese の一部はレストランなどであっても一人で食べる。

3. 企画の反省　改善点

小学校企画の準備に時間が充てられ、予定のタイムスケジュールより短時間の企画になったことで、みんなの意見や、２つの国の現状の共有でほぼ時間が終わりました。もう少し時間を設ける、あるいは、別日、ISAP メンバーがもう少しフィリピンで過ごし、

食生活を知ったうえでもう一度話し合う機会があっても面白かったと思います。短時間でも、現状をお互いに知るという目標は達成できたが、双方のメリットやデメリット、対策など、より詳細な話をしたら、理解が深まったと思います。

写真の資料を用意したら、理解がしやすくなると思います。

4. 感想

食をテーマとした小学校企画の準備をする前に、LOOB メンバーと食について話し合う機会があったのは、とても良かったです。私は、ISAP の参加が決まる前、日本と同じ島国であるフィリピンは少々排他的で、外国を遠い存在と考えているのではないかという勝手な思い込みがありました。しかし、それは大きな間違いで、外国の食べ物も好んで口にすることが分かりました。それはそのほかのことでも感じたことで、村ではフィリピンの歌だけでなく、多くの外国の歌が楽しまれていました。また、日本のこしょく問題について大きく驚いているキャンパーもいて、全員で食事をするとき、Filipino は食べながら明るく話しかけてくるので、それをこれからも続けていってほしいと感じました。

friendship night

文責：辭　宇航

1. ・目標

　　みんなが笑顔で終われる

　・ 目的

　　感謝の気持ちを伝え、次の ISAP につなげる。

2. 活動内容

　a)　日程：　9 月 13 日

　b)　活動場所：ベース

　c)　協力団体：LOOB さん

　d)　活動内容

私たちはフレンドシップナイトに「舞台」を用意しました。この「舞台」で、日本人キャンパーもフィリピンキャンパーさんも真の自分自身を笑顔で表現しました。この日、昼一時から夕方まで準備をし、本番では主に四つのプログラムがありました。

その一：料理

フレンドシップナイトでしたので、晩御飯ももちろん用意していました。みんなそれぞれ自分のホームステイ先の家族や近所の方々と話ながら一緒に食べました。この日の料理はいつもより品揃っていまして、昼間からみんなが豚を殺して色々な料理をしました。日本人キャンパーからフィリピンに紹介する食べ物が豚汁でした。そしてフィリピンキャンパーさんもフィリピンの豚汁を作って、みんなに味比べをさせました。現地のボランティアである日本人スタッフから、久々に祖国の味を口にして感動したとの子感想をいただきました。そして、フィリピンの豚汁にバナナも入れることにびっくりしましたが、味は美味しかったです。

その二：各ホームステイのプレゼン

プレゼンと言っても、ダンスがメインでした。実際に、筆者のファミリのお母さんが最初に、自分の知っている日本の歌を英語に訳してみんなで歌おうと言っていましたが、でもみんなで話し合いをしていたらやはりダンスをすることにしました。フィリピンのみんなはダンスが上手いです。ほとんどのファミリのダンスがフィリピンのローカルダンスで、日本の私たちに教えてくれました。各ファミリの子供の中に、又小学校なのにダンスの上手い人もたくさんいました。そして、唯一日本人から選曲、ダンスを全部考えた「リンダリンダ」とのプログラムがみんなに大ヒットし、後日になってもみんなの話の中から出てきました。

その三：キャンパーによるプレゼン

日本人キャンパーからのプレゼンは AKB48 の「会いたかった」のダンスでした。みんなが国内にほとんど自宅で練習し、一緒に練習できたのがわずか三回しかなかったですが、この数日間フィリピンキャンパーさんとの交流と共同、ホームステイファミリへの感謝、子供たちの笑顔などいっぱいな思いを心に込めてこのダンスをしました。そして揃った ISAP ユニフォーム、みんなの笑顔でフィリピンのみんなの心にいい思い出を焼き付けたでしょう。

その四：ディスコタイム

全てのプレゼンが終わり、最後の時間はディスコテイムでした。半露天の場所で、電気を全部消して、そしてフィリピンキャンパーさんがどこからパーティーディスコライトを持ってきて、会場のみんなが盛り上がりました。そして流す音楽は現地の思い出となり、「count on me」、「fifth harmony」、「timber」など、日本に戻ってきて聞いてもその日のことを思い出して胸が熱くなります。

3. 反省点

パーティー見たいな一日でしたので、特に反省点と言った反省点がありませんでした。役割もその日に分担して、しっかり準備をできていました。日本から持っていく出しものとしてはダンスと豚汁でして、国内ではちゃんと担当者を決め、ちゃんと準備ができていました。笑顔で最初から最後まで楽しんで、そして又来年の ISAP の活動を期待していると言われて、僕たちの目的目標を達成できたと思いました。

4. 感想

最初フィリピンに行って、言葉も通じなくて、そして親もフィリピンへのいいイメージがなくて、カバンは絶対体の前に置くんだぞ、お金を絶対人前で出さないとか言われて、正直本当に 10 日間やっていけるかどうかに関して不安しかなかったです。でもみんなと接して、普通にいい人とわかりました。ここの人はここの人なりの生き方をもって、ここの特色がありました。体験してよかったと思いました。そして、フィリピン人キャンパーさん達、ホームステイファミリへの感謝の気持ちはこのフレンドシップナイトで、みんなと高いテンションで恥ずかしがらずに表現できました。ホームステイでいくつのファミリで別れましたが、正直みんな近所で、夜の寝るところが違うけれど、普段の会話とかでは全員知っていました。そして自分の今回ホームステイの集大成見たいな感じで、このフレンドシップナイトはほぼホームステイの終了を見えまいたが、みんな涙をこらして、最後笑顔で終われてよかったです。本当に最高の一日でした。そして来年も又みんなと会いたいです！

3-2-4

国外活動写真

・フィールドワーク活動

・協働活動

・交流活動

Aug. 28, 2014

第 4 章

参加者の感想

ホームステイ感想①

ホームステイ感想②

第 6 回国際協働プロジェクト参加者感想①

第 6 回国際協働プロジェクト参加者感想②

4-1

ホームステイ感想①

文責：穴井　万里奈

私はISAPでのホームステイが人生で初めてのホームステイでした。ホームステイを通して様々な素敵な経験ができました。洗濯は井戸へ行き水を出して行いました。家の中には、犬・にわとり・猫などの動物がいるのが当たり前でした。お風呂は水浴びのようなものでした。想像と違って驚きを隠せませんでした。家へ帰ると子供たちと一緒に絵をかいたり話をしたりして遊びました。私はフィリピンの子供たちは、日本人の子供たちと比べて人懐っこいなと思いました。好奇心旺盛だなとも思いました。週末は教会へ行きお祈りをしました。私は教会に行くの自体が初めてだったので、教会の美しさにとても感動し心を奪われました。

一番に感じたのは、ステイ先のホストファミリーの温かさです。私たちを本当の家族のようにお世話してくれました。大雨が降った日には、タタイ（ホストファザー）たちが傘をもって迎えに来てくれました。毎朝ナナイ（ホストマザー）が、朝早くから朝ご飯を作って待ってくれていました。一日の活動が終わると、いつも子供たちが迎えに来てくれました。私の名前を呼びながら、笑顔で話をしてくれました。大学生になり私は一人暮らしをしているため、家族とふれ合うことができるのは年に数回です。そのせいか、フィリピンのホストファミリーの優しさ、温かさが本当に身に沁みました。だからこそお別れの時はとても寂しくて、出発の日の朝に家からベースへ向かう途中の道で涙が止まりませんでした。今でもよく思い出しては懐かしんでいます。国内活動の時に、フィリピン人は家族を大切にするという話を聞いていましたが、まさにその通りだと思いました。それは、彼らの本当の家族に対してもそうであったし、何より自分たちのことも本当の家族のことのように扱ってくれたことからも感じられました。私も自分の家族をもっと大切にしたいと思うようになりました。

ホームステイをする前は不安でいっぱいでした。私は英語を話すのが得意ではないし、日本と違いすぎる環境で生活することにとても大きな不安を抱いていました。しかし、終わってみるとあの生活に戻りたくて仕方がありません。このように思うことができたのも、ホストファミリーやシスターのキム、ちはるさんのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。もし今後フィリピンに行く機会があったら、絶対に会いに行きたいと思います。

4-2

ホームステイ感想②

文責：原田　侑加里

私が国際協働プロジェクトの中で一番思い出に残っているのはホームステイです。私は今回が初の海外でもちろんホームステイをするのも初めてでした。ホームステイは国外活動の 12 日間中 8 日間で、ホームステイをする前の私にとってはとても日にちが長いと思いました。私は英語が苦手でホームステイ先の家族と仲良くできるか緊張と不安でいっぱいでした。

ホームステイ 1 日目、まず私が最初に驚いたことはホームステイ先の家に行くまでの道でした。日本のようにコンクリートですべてが舗装されていることはなく、土の道でした。いろんな場所に牛や鶏がいて、下をきちんと見て歩かないとその動物たちの糞を踏んでしまうほど、道に大きい糞がたくさんありました。また、川の間を土で固めて作った道がとても狭くて最初通る時は川に落ちそうで怖かったです。ホームステイ先へ行く時間は 18 時くらいでフィリピンでは真っ暗なので懐中電灯の光だけを頼りに歩いて行きました。ホームステイさせていただいた家に到着した後は少し家族の人と話した後、お風呂に行ってすぐに寝てしまいました。ホームステイ初日は家の外にあるみんなが使用する井戸の横で服を着て身体を洗いました。Deza（フィリピ―ノキャンパー）が「ここでお風呂に入るよ」って言ってきたときは「えっ？！本当に？！」と驚きました。ここで身体を洗うくらいなら入らなくていいと思いました。しかしそうゆうわけにもいかず、意を決して井戸水で髪を洗いました。夜中の 9 時くらいに外で服を着たまま井戸水で髪の毛や身体を洗うのに抵抗があり汚い話ですが充分に洗うことができませんでした。服もびしゃびしゃで少し寒かったです。

ホームステイ 2 日目、2 日目は家の中でお風呂に入ることができました。家の中といってもトイレの横です。トイレの横に大きいバケツがあり、そこに汲んできた井戸水があるので桶で身体を洗いました。日本では温かいお湯を毎日使っていたので冷たい水になかなか慣れませんでした。そして、フィリピンに来てから初の洗濯をしました。洗濯機なんてものはないので自分の手洗いで衣服を洗いました。手洗いの洗濯がこんなに大変だとは思っていませんでした。いつもは洗濯物を洗濯機に入れて、洗剤を入れてボタンを押せば、数分後には洗濯できているのに、自分の手で洗うとなると普通に一時間以上かかるというのを身を持って知りました。さらに洗濯の水も井戸から汲まなければならなかったので井戸から家の前までの往復も大変でした。また、この日もホームステイ先の家族との距離感がよくわからなくてあまり会話をせずに寝てしまいました。子どもも４歳と１歳で幼かったのでシャイでどのように接すればいいかわかりませんでした。

ホームステイ３日目、他のホームステイをしているメンバーから、ホームステイの子ど

もとずっと遊んでいる、家族の名前を覚えているなど、良い関係を築いているのを知って、私は焦りました。この 2 日間の私の関わり方ではいつまでたっても仲良くなれることはないし、自分から勝手に壁を作っていたのだ、ということに気づきました。もう少し自分から積極的に家族に話し掛けにいこうと思って思い切ってプライベートに侵入してリビングみたいなところにずっといました。下手くそな英語で頑張って話しかけたら思いのほか話が盛り上がってとても嬉しかったです。また、ホームステイの家族も英語がそんなに得意ではなかったので通じなかったり、ヒリガイノン語で話しかけられたりした場合は Deza が訳してくれたのでフィリピン人キャンパーさんがいて本当によかったと思いました。
三日目を境に家族との距離がだんだんと縮まっていったと思います。

ホームステイ先の子どもにプレゼントで大きいシャボン玉をあげました。4 歳だったのでシャボン玉で遊んで楽しんでくれるか不安でしたが、わたしが出したシャボン玉を追いかけて走ってとても楽しそうにしていたのを見てプレゼントして良かったと思いました。次の日の朝もシャボン玉で遊んでいたので嬉しかったです。

ホームステイの最後の日、とうとうお別れの日、最初は長いと思っていたホームステイもあっという間で短かったと思える自分がいて驚きました。泣くつもりもなかったのにホームステイのお母さんが泣いていて思わずつられて恥ずかしいことに号泣してしまいました。日本より生活が不便で困ることもたくさんありましたが、最初はシャイで全然近寄ってこなかった子どもたちが、最終日にほうでは自分から私に近寄ってきて手をタッチしてきくれたこと、雨が降っていた所為で道がどろどろで、家に到着したときには泥まみれの靴を何も言わずに洗って干してくださったお母さん、毎日 LOOB のベースまで迎えに来てくれたり、洗濯を手伝ってくれたりした娘さん、他にも数えきれないほどたくさんの人に助けてもらいました。言葉が通じなくても、国籍が違っても、そんなこと関係なく優しくしてもらってホームステイの素晴らしさを感じることができました。

ホームステイさせていただいたお家は今年初めてホームステイを受け入れてくれたお家だったらしくて、多分私と同じでどのように接したらいいかわからなかったのではないかと思います。お互いに初同士だったので最初は探り探りでしたが最終的には家族との仲はもちろん、Deza や一緒にホームステイをした東果歩ちゃんとの仲も深めることができて良かったです。またフィリピンに行ってホームステイをするならまた同じお家にステイさせてもらいたいです！

4-3

参加者感想①

文責：浦川　恵理子

私は神戸支部、甲南大学 3 回生浦川恵理子です。私は ISAP06 に参加者であるスタッフとして参加しました。私が ISAP06 に参加しようと思ったきっかけは、ISAP06 の実行委員の方に魅力を伝えられたからです。大学生の今だからできる、活動が ISAP06 にはあると思いました。また、異国の地であるフィリピンで子供たちと関われることにも魅力を感じました。日本にいても子供たちと関わる機会はなく、ここで活動に参加することは大人になっては経験できないことだと思い参加を決めました。私はいままで ISA のプログラムに参加したことがなく、参加しようかとても悩みましたが、勇気を持って一歩踏み出してよかったと思います。

日本での活動が 6 月からスタートして、最初はとても緊張しました。私は 3 回生ということもあり、周りを見渡せば 1、2 回生が多い状況でした。同じ 3 回生であっても、さまざまなプログラムに参加している人たちばかりで、自分よりも経験豊富で、この中で自分はやっていけるのかという不安もありました。しかし、話し合いがはじまれば、個人で ISAP への目標は違うけれど、ISAP06 をよいものにしたいという大きな目標は同じなので、よい雰囲気で進めていくことができました。私は社交的な性格ではないため、みんなと打ち解けることに苦労するかと思いましたが、みんながとても優しく、私に話しかけてくれたり、活動の中で一緒に話したりする機会が多かったので、それもよい雰囲気に個人的に影響していたのではないかと思います。

実際の活動については、私は家の事情が重なり、フィリピンに行って活動をすることはできませんでした。なので、日本での、現地での活動の準備のみの参加でしたが、学びはたくさんありました。特に 2 つの学びが、私には印象に残りました。ひとつめは、大勢の人と一緒の目標に向かう困難と楽しさです。個人によって価値観が違うため、話し合いでなかなか意識の統一などが難しいときもありました。しかし、みんなの価値観が違う中、作り上げたものが完成したとき、それを他の人に評価してもらい、よい評価を得られたときはとても嬉しかったです。準備をしている過程は大変ではありましたが、みんなでさまざまな意見を言い合いながら一つのものを作ることは、とても楽しかったです。ふたつめは、あきらめないことです。わたしは先に書いたように、現地で活動をすることができませんでした。これは、日本での準備が最終段階に入ってから決まりました。決まった時は、とても悲しく、悔しく、みんなに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。そこで活動から完璧に立ち去ることも考えましたが、最後の報告会までみんなと過ごして、ISAP06 に関わりたいという気持ちが大きくなりました。みんなの理解もあり、私は報告会まで関わることができました。私はいつも、自分の気持ちよりも他人の気持ちを優先してきて、自

分の気持ちもあきらめてしまっていましたが、今回自分の気持ちを優先してよかったと思います。活動のすべてに参加することはできませんでしたが、最後までやり遂げられて自分の自信にも繋がったと思います。

ISAP06 に参加したからこそ、このような感情や学びを得ることができました。参加して本当によかったとあらためて思います。

4-4

参加者感想②

文責：北野　哲弥

ISAP06 の国外活動は私の視野と世界観を広げ、それは自己の成長へと繋がりました。

まず、生活スタイルの違いにはかなり衝撃を受けました。ISAP06 に参加する前に「世界中のほとんどの国は水道水を飲むことはできない」ということは既に知っていました。しかし、現地での生活が始まると考えてもいない未知のことが次々に起こりました。それはトイレに水が通っていないのでバケツから水を汲んで水圧で流し、トイレットペーパーはそのまま流せないのでゴミ袋に入れたりしました。また、風呂に入る時はバスタブやシャワー室などはなく、井戸から水を汲み外で体を洗浄しました。私は 19 年間生きてきてこのような経験をしたことがなかったからこそ、日本の生活は本当に快適だと思い知らされ、どれだけ自分が恵まれている生活に身を置けているのかを感謝しなければならないと感じました。当初は日々の生活の違いにためらいを感じましたが次第に生活の違いに慣れていきました。そして自国と異なる環境に身を置き、現地の人達と同じ生活をし、その環境に適合していくことは異文化理解をする上で最も大切なことだと学びました。

また、現地に暮らす人々の人柄にも驚かされました。私が道端を歩いていた時、ジプニーに乗っていた時に子ども達と目が合う度に、彼らから手を振ってくれたり、自分の所に近寄ってくれ、手を繋いで歩いたりしました。彼らからは異国から来た見ず知らずの自分に対する警戒心や距離感などを一切感じませんでした。そして私は子ども達の親切な行為に心が穏やかになりました。なぜなら、日本では私と道端で遭遇する子ども達の間には、他人同士だから関わりを持つ必要がないという大きな隔たりがあるからです。私は生活する環境が違うだけでこんなにも人の温かさや情を感じることができることを知れました。そんな子ども達の人柄のおかげで私は、常に彼らと笑顔で過ごすことができ、毎日が笑顔で溢れる時間を過ごすことができました。彼らと遊んだ中で学んだことがあります。それは外国の人達と意思疎通を図る上でたとえ言葉は通じなくても、「この人と仲良くなりたい！」という気持ちがあれば、すぐ仲を深めることができたことです。私は外国人と意思疎通を図る上で大切なことは、流暢に完璧な英語を話せる能力より、ありのままの自分を素直に表現することだと気づかされました。

国外活動は楽しいことばかりではなく、たくさんの苦悩がありました。1 つ目は現地の人達やキャンパーさんと会話をするにしても、英語を全く聞き取ることができませんでした。私は何度も聞き返し、且ゆっくり話してもらってやっとの思いで英語が聞き取れました。しかし、聞き取れたとしても返す言葉がすぐに浮かばず、会話が成立しないことがほとんどでした。私は今までになく言語の壁を痛感しました。英語をきちんと聞き取ることができ、もっと英語を話す力があれば、現地の人達の会話からもっと得られる物があったと思

います。しかし、その中でも私は拙い英語に身振り手振りを加え自己を表現することを心掛けました。その甲斐があって、自分の言いたいことが相手に伝わった時は本当に嬉しかったです。

2つ目はスモーキーマウンテン見学での体験です。私は見当違いのゴミの量と臭いに言葉が出なかったです。日本では決して見ることのない風景を目の当たりにして、今まで何不自由なく生活を送ってきた自分に腹立たしくなりました。さらに悪いことに、実際にスモーキーマウンテン付近に暮らす人々は近くでゴミを拾い生計を立てていることを知り、心が痛みました。彼らの生活している環境状態はとても悪く、衛生面ではいつ病気になっても不思議ではありません。しかし、彼らは家族のため、子ども達のために必死にゴミを集めて生きています。私の生活と彼らとの生活を比べると、明らかに過ごしてきた時間の濃さが違いました。彼らの懸命に生きようとする姿を思い浮かべると、ただ何となく毎日を過ごし生きてきた自分がやるせなかったです。しかし、そんな中でも私は子ども達から学んだことがあります。それはどんな深刻な状況の中でも、日々の暮らしから幸せを見出し、笑顔で居続けることです。生活環境が良いとは言えない中で、いつも笑顔でいれる子ども達は本当に美しく、未だに脳裏から離れません

私はこの国外活動を通じて、自分自身は成長することができたと自信を持って言えます。

１つ目は人前で話すことが苦手ではなくなったことです。ISAP の活動に参加する前の自分は、人前でプレゼンテーションすることがあまり得意ではありませんでした。しかし、国内活動でプレゼンをする機会が多く、「どうしたら現地の子ども達に自分の言いたいことが分かりやすく伝わるか」ということに重きを置き、試行錯誤を繰り返す中で徐々に場馴れしていき、それは少しの自信へと変わりました。しかし、その自信は実際に現地の子ども達の前で発表するとすぐに打ち砕かれました。それは聞き手が日本人から外国人に変わるだけで言葉では表現できない緊迫感でした。私は萎縮してしまい、失敗ばかりで逃げ出したくなる時もありましたが、子ども達はとても意欲的で目を輝かせ、私の発表を真剣に話を聞いてくれていました。それは自分自身を変える大きなきっかけになりました。子ども達のおかげで私は恥もプライドも捨て、自分なりに工夫を凝らした発表をすることができ、伝えたいことを伝えきることができました。今でも思うことは、私は子ども達にいろいろなことを伝えましたが、それ以上に子ども達から得た物は大きかったです。

２つ目は体験したことのないことに対し、自分の思い込みや偏見に捉われず、自分の目で真実を確かめる大切さを知りました。それは現地の風景や貧困の深刻さや現地での食事でした。私が持っていたフィリピンのイメージはどこにでもバナナが成り、人々は昆虫を食べ、森だらけの場所で生活をし、ただ単に貧困な国だと思っていました。しかし、実際に飛行機から見たフィリピンはビルや家が密接し、車がたくさん通っていました。また、バナナの木を一度も見ることはなく、食事も主食、主菜、汁物といった日本のスタイルと変わりませんでした。貧困のイメージも一日の給料を実際に数値で表すと、その深刻さが鮮明に分かりました。私は思い込みに捉われ、本当は何も知らなかったのです。しかし、

新しい発見は私にとって、とても刺激的であり、異文化に対する興味は更に深まりました。

私は今回の活動を通じて、今までに体験したことのない経験をたくさんしました。それは私を普段気づかないことに気かせ、自分を見つめ直すきっかけになりました。12 日間という短い時間でしたが、本当にとても内容の濃い時間を過ごすことができました。ISAP06 のメンバーや現地の人々と過ごした時間は私の一生の宝物です。

第 5 章

実行委員長全体総括

実行委員長全体総括

実行委員長総括

実行委員長として第 6 回国際協働プロジェクト(以下、ISAP06)に携わった一年を振り返りました。

本プロジェクトの目標の一つとして、「成長」を掲げているが、今年のメンバーをみて本当に成長を感じることが多くありました。初めてメンバーの顔合わせをしたときには、緊張もあり、勉強会なども堅くなってしまいました。しかし、会議の回数を重ねるごとに、お互い遠慮せず意見を言い合う仲になり、積極的に発言していこうという姿勢が見られました。また、個人の課題を共有することで、助け合い達成に向け取り組みました。この活動を通してライバルといえる仲間と出会い、切磋琢磨することで共に成長することができたと思います。

一方で、ISAP06 が与えた影響はどうだったかと考えると、まだ多くの課題は残されています。国外活動では、言葉の壁や経験の差によって十分に力を発揮できない場面がありました。小学校でのレクチャーを準備するときなど、経験豊富な LOOB スタッフに頼ってしまいがちでした。もちろん、協働を掲げるプロジェクトであるため、協力は不可欠ですが、ISAP メンバーが意見を出せずにいたことは反省点です。今回は、初めて海外に行くメンバーもおり、慣れない環境の中でプロジェクトを成功させるのは簡単ではありませんでした。事前に勉強会をしたとはいえ、インターネットなどからの情報だけでは不十分であるということを強く実感しました。やはり、実際に現地に行った人から話を聞くことは大切です。

これらの反省を生かし、今後も ISAP は、学生にできることを模索し続け、更なる躍進を遂げ、関わるすべての人々にとって大きな学びと成長の機会となっていくでしょう。

2015 年 11 月
第 6 回国際協働プロジェクト(ISAP06)実行委員長　橋本　望

第 6 章

第 6 回国際協働プロジェクト予算書
第 6 回国際協働プロジェクト決算報告

第 6 回国際協働プロジェクト予算書

第 6 回国際協働プロジェクト決算報告

6-1

第 6 回国際協働プロジェクト予算書

会計

支出内訳(案)

1.活動運営費　　（単位：円）

国外活動運営費		
滞在費	現地交通費、宿泊費 13人分	949,000
企画活動費	資材費	40,000
小計		989,000

国内活動運営費		
交流活動費	資材費、交流会諸費用	20,000
小計		20,000

2.実行委員会運営費		
交通費	遠方者への援助費	75,000
会議費	合宿宿泊費、会議室費	79,000
広報費	資材費、印刷費	6,500
T シャツ費	Tシャツ 13 人分	32,500
小計		193,000

総計	1,202,000

収入内訳(案)

（単位：円）

参加費	13 人分	1,014,000
財団助成金	（未定・申請中）	150,000
ISAP05 繰越金		38,000
小計		1,202,000

総計	1,202,000

6-2

第 6 回国際協働プロジェクト決算報告

会計

支出内訳(案)

1.活動運営費　（単位：円）

国外活動運営費		
滞在費	現地交通費、宿泊費 13人分	949,000
企画活動費	資材費	4,860
小計		953,860

国内活動運営費		
交流活動費	資材費、交流会諸費用	2,697
小計		2,697

2.実行委員会運営費		
交通費	遠方者への援助費	199,974
会議費	合宿宿泊費、会議室費	83,004
振込手数料		756
T シャツ費	Tシャツ 13 人分	26,000
ISAP06 繰越金		56,309
小計		309,626

総計	1,322,600

収入内訳(案)

（単位：円）

参加費	13 人分	1,014,000
ISA 助成金		120,000
財団助成金		150,000
ISAP05 繰越金		38,600
小計		1,322,600

総計	1,322,600

第 6 回国際協働プロジェクト(ISAP06)　事業報告書

発行責任者　橋本望（第 6 回国際協働プロジェクト　実行委員長）
編集責任者　長谷川麟（第 6 回国際協働プロジェクト　広報部長）

発行元　日本国際学生協会　国際協働プロジェクト